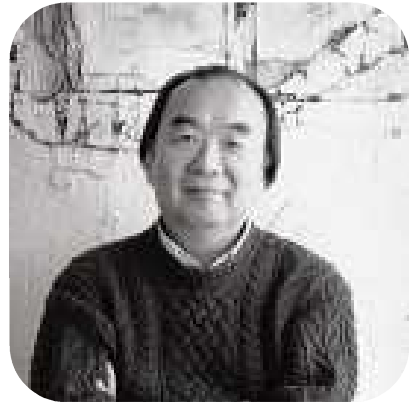


【特別寄稿】

イスラマバード日本人学校校歌と私

作曲家 服部 公一 氏



私は作曲家生活六十余年、七十曲以上校歌、社歌、市民歌、町民歌などを作曲した。株式会社上場の大会社から田んぼの中の保育園まで、みんなの一つのメロディを歌うことを有意義だと思ふ、という方々が私に名ざしで委嘱して下さったのだ

から、すべてお引き受けしている。

その中で経営がおかしくなった大きな会社—例えば山陽特殊製鋼（この会社は再生しているが、もう拙作の社歌ではない）—などがあるが近年の人口減少で二つ三つの町村が合併し、従って学校も一つに統合され校歌も消える、という運命になった小、中学校校歌がいくつかあって残念だった。嬉しいこともあった。ある学校の同窓会で合併されて消えた拙作の校歌を昔歌ったおじさんおばさん同窓生、が歌唱してくれた。これはとても楽しい話だった。校歌ではこのようなことが時々起きているらしい。

先年ある貿易会社のディナーでその会社の課長

さんが二人ブラジルからの帰国子女（元子女と申すべきだが）がおられて拙作のサンパウロ日本人学校校歌を全曲歌っていただいたのには感激した。これ即ち「作曲家冥利」である。

このような拙作は日本全国、北海道から九州までにわたっているし、外国ではブラジルのサンパウロ、ポルトアレグレ、アメリカのシアトル、それにパキスタンの首都イスラマバードの日本人学校校歌を作曲した。

私は三十年ほど前、諸外国において日本現代文化広報をしていたことがある。それは国際交流基金や外務省の仕事で現代日本音楽の紹介に講演をして歩いたのであった。日本人はたった百数十年の間に西洋音楽先進国になったのである。明治維新以前、そもそも日本音楽のルーツは別のものだったのに、今や日本民謡でもジャズバンドの伴奏で歌われるし、日本人の小学生はみな五線譜に親しんでいる。五線譜はドレミファ音楽の表記法である。西洋音楽、つまり異文化が源泉なのである。日本人指揮者小澤征爾氏は今や世界有数の存在、国際的に活躍している日本人のソロピアニストやバイオリニストは多いし、世界中の主要オーケストラで日本人奏者不在の楽団はなさそうである。現代の日本人は音楽的にみてかなり特異な存在であり、それを広報することで日本文化の理解を得ようというプロジェクトであった。

この仕事で私は畏友柳健一氏（一九八四年）、駐パキスタン大使）にいろいろお世話になった。そのご縁もあって一九八七年にカラチとイスラマバードにお邪魔したのである。柳さんが大使で赴任しておられなかったら、この国に行くことはなかったし、これは私にとって貴重な学習であった。当初の出張スケジュールはヨーロッパの諸都市でパキスタンは予定されていなかったからである。

しかしヨーロッパ諸国に赴く途中にパキスタンを入れたのは私の現代史学習に特別な一ページを加えることになった。それは柳大使の特別な御高配により文化担当書記官の案内で大使館の車でペシャワールの博物館と難民キャンプを視察させていただいたからである。

博物館ではガンダーラ美術の精緻な仏像を拝観したし、アレキサンダー大王が紀元前にそこを越えて遠征したというカイバル峠の入口も見た。しかし何よりも深刻に胸に刺さったのはペシャワールの難民キャンプに入れてもらったことによる見聞である。

当時アフガニスタン紛争の最中、戦闘で住居を失った難民が赤土のみの大地に粗末な仮小屋に住むことを余儀なくされ、そばの小川で子供が身体を洗っている姿を見た。そこに日本人の女医さんが国連の派遣で駐在していたことも印象的だった。難民キャンプの視察などは書記官といっしょ

に大使館の車で行ったから可能だったわけでも、つまり柳大使の配慮のおかげであった。

このときに柳大使からその年に日本人学校が開校されその校歌の作曲を依頼されたのであった。素直できれいな歌詞は在校生のお母さんの作？らしかった。私はそれからすぐヨーロッパへ向かったのだったが、その飛行機の中で校歌の作を練ったのだったかもしれない。

帰国後日本で校歌を仕上げ印刷してお届けしたように記憶している。従ってこの校歌の初演はおろか児童の歌唱も聞いたことがなかった。

あれから30年あまりが流れ、このたびイスラマバード日本人学校校長の宗像玲先生から、開校三十年の記念誌に寄稿を依頼された。と同時に在校生の歌唱のCDが送られてきた。そのCDを聞いて（これが初めてこの作品の実演？を聞くのだ）校歌の歌唱もピアノ伴奏もとても上手！で嬉しくなった。敢えて申せば拙作数十曲のこの種の歌の中でAクラスの作品のように自画自賛した。

そのCDに在校生十数人の写真が添付されていた。今や日本人の子どもたちは世界中どこで見てもさわやかで浚刺と生きている。この子供たちが拙作の校歌を歌い続けていると思うと老人の私の胸を打った。